

大阪府立弥生文化博物館

平成5年秋季特別展

10月2日(土)~11月28日(日)

「弥生人の見た」

主催：大阪府立弥生文化博物館
朝日新聞社・朝日放送

●開館時間／午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
●休館日／毎週水曜日（祝日の場合はその翌日）
●入館料／個人：一般600円 高大生400円 小中生200円
団体：一般480円 高大生320円 小中生160円
（団体は20名以上）



「楽浪文化」

考古学セミナー 午後2時から4時・1階ホール

- ◆第1回／10月10日(日・祝)
「秦漢時代の大古墳」小野山 節(京都大学教授)
- ◆第2回／10月24日(日)
「倭人伝のクニグニ」吉田 晶(岡山大学名誉教授)
- ◆第3回／11月7日(日)
「楽浪漢墓出土の鏡」岡村 秀典(九州大学助教授)
- ◆第4回／11月23日(火・祝)
「楽浪遺跡の発掘と研究の現状」
永島 輝臣慎
※各回とも当日午後1時から受付 (大阪市文化財協会調査課長)

本館学芸員による展示解説

- ◆毎週日曜日と祝日 午前11時から特別展示室



大阪府立弥生文化博物館
Museum of Yayoi Culture

〒594 和泉市池上町443 ☎(0725)46-2162 ●交通／JR阪和線天王寺駅から25分 信太山駅下車徒歩7分、南海本線松ノ浜駅下車徒歩20分

漢の歴史家、班固はその著作の『漢書』地理志で、はじめて倭人を紹介しました。「楽浪海中倭人有り、分かれて百余の国を為し、歳時を以て来たりて献見す」とあるのがそれです。ここには紀元前1世紀のころ、弥生時代中ごろの日本列島の様子が記されているとみられます。

当時の中国では、「漢」帝国が栄え、東アジア世界に君臨していました。なかでも有名な漢の武帝は、紀元前108年に、楽浪・臨屯・真番・玄菟の4郡を設置しました。そのうちの楽浪郡は、313年に滅亡するまでの400年間、周辺諸民族に対して、高度な中国文明を伝える「出島」のような役割を果たしました。

楽浪郡の役所が置かれていた朝鮮半島の平壤（ピョンヤン）付近には、郡治跡の土城と二千基余りもの漢墓が残されています。

楽浪漢墓には、精緻な紋様や絵画を描いた銅鏡・漆器をはじめ、玉器・青銅器・装身具・武器・車馬具など、多量の品々が副葬されていました。これらは高度に発達した中国文化を代表するものであり、同時に当時の貴人達の宗教観も表していました。

楽浪の海の彼方に住むと思われた弥生人は、楽浪の文化に「漢」の香りを、そして背後にある権威を感じとったことでしょう。とはいえ楽浪の文化のすべてが吸収されたのではありません。与えられ、あるいは望んだものだけが日本列島にもたらされました。

日本列島で出土する漢代の遺物を考えるためにも、その発信源となった楽浪文化を、私達は一度弥生人の眼で観察してみましょう。



世界最古の年号鏡
(五島美術館蔵)

◎主な展示品◎

- 世界最古の年号鏡 伝楽浪
- 玉で作った髪飾り 伝楽浪
- タイマイの甲羅で作った櫛 伝楽浪
- 鏡を入れた箱 平安南道石巖里205号墳
- 酒や汁物を入れた容器 伝楽浪
- 銀製の指輪 伝楽浪
- 紋様や文字を記したレンガ 黄海道帶方太守墓
- 漢代の銅銭 平安南道楽浪土城跡
- 楽浪郡の長官印が押された封泥 伝楽浪



玉で作った髪飾り
(出光美術館蔵)



1930年代の楽浪土城跡